

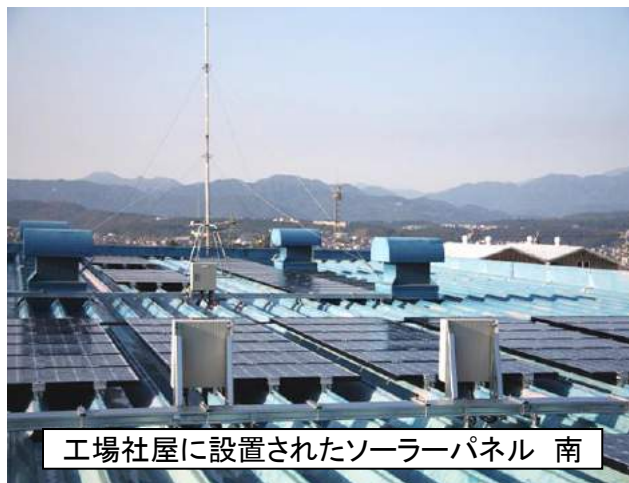
V-8.環境目標の実績-平成29年度活動内容(1)

(1)太陽光発電システムによる自然再生エネルギーの活用(売電実績・設備償却管理)

三菱電機製 太陽光発電システムを導入し、2013年11月6日より発電(売電)開始しました。
 予定年間発電量は32,557kWh/年で、二酸化炭素削減量に換算すると-15,106kg-CO₂/年に相当します。



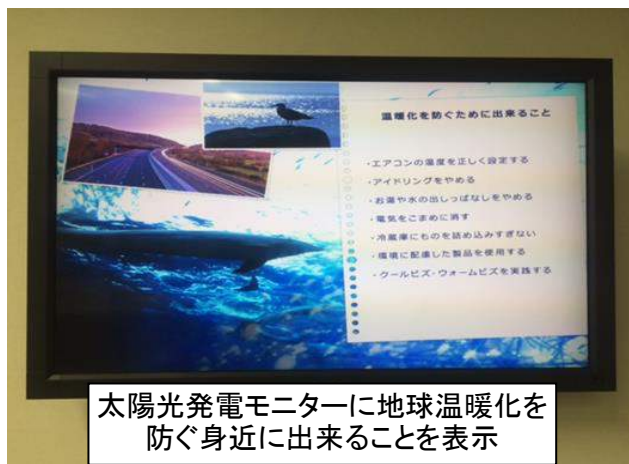
工場社屋に設置したソーラーパネル 北側



工場社屋に設置されたソーラーパネル 南



太陽光発電モニターに現在と本日の発電電力量を身近なもので換算表示

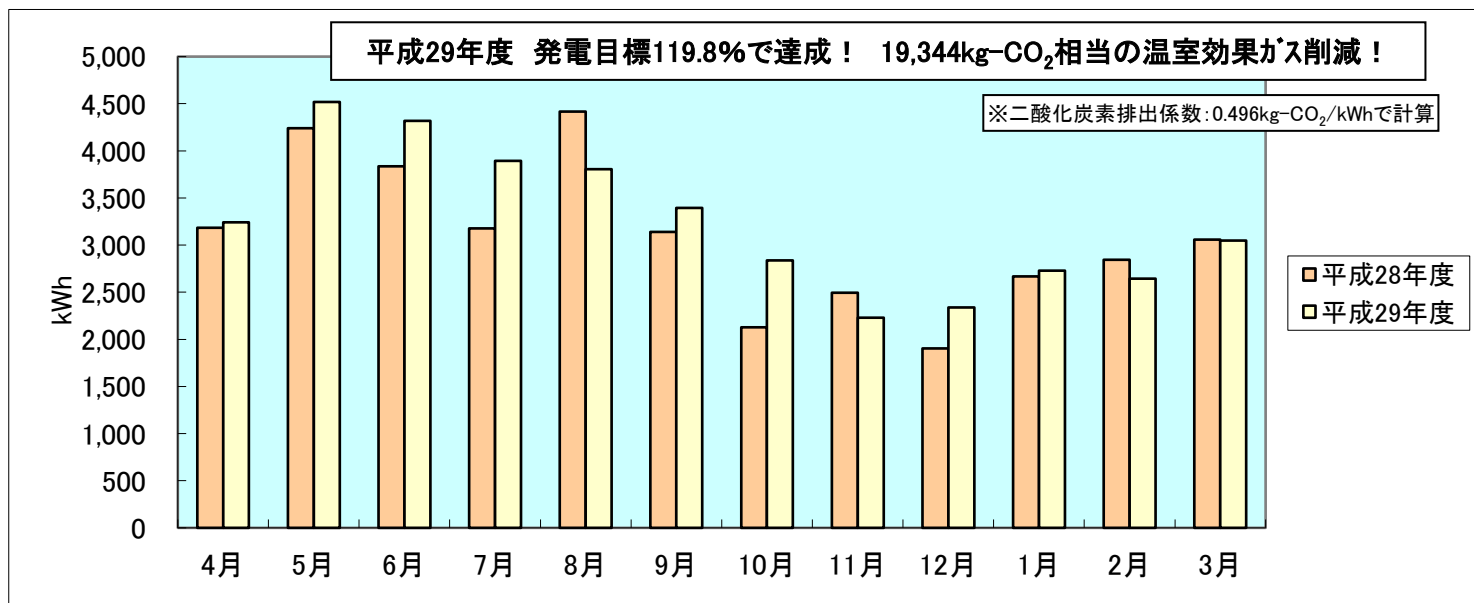


太陽光発電モニターに地球温暖化を防ぐ身近に出来ることを表示

年間実績評価(月毎に、発電量(売電量と売電金額)を集計し、売電金額による設備投資の回収率を把握する。)

達成率 119.8%	設備投資回収率 58.4%	目標/年 32,557 kWh	実績/年 38,999 kWh
-------------------	----------------------	------------------------	------------------------

※設備投資回収率:平成28年度3月までの売電金額の累計総額計算



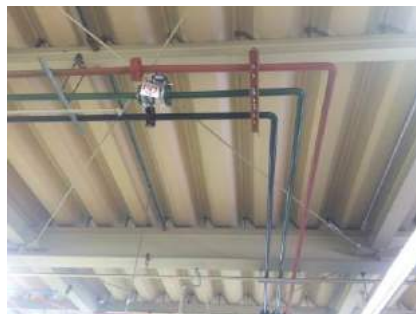
V-8.環境目標の実績-平成29年度活動内容(2)

(2)二酸化炭素CO₂排出量・電力使用量等の省エネルギー推進

A. 省エネルギー設備の導入



B. LPガス・酸素ガス・窒素ガスの配管ループ化



C. 蛍光灯のLED化



増産に伴い、最新型のエアーコンプレッサー(2台)の導入、LPガス・酸素ガス・窒素ガス配管のループ化、蛍光灯のLED照明にすることで、二酸化炭素CO₂排出量・電力使用量等の省エネルギーの推進を行いました。

V-8.環境目標の実績-平成29年度活動内容(3)

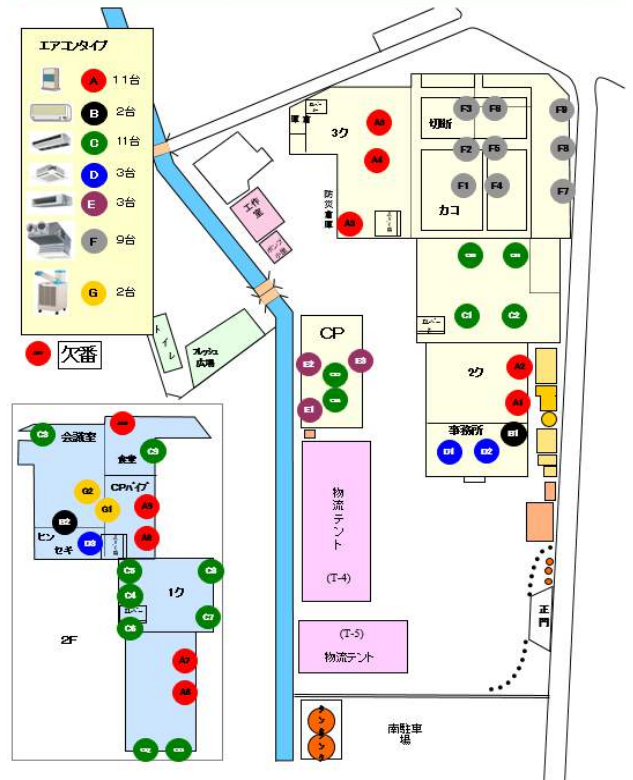
(3)古いエアコンの廃棄推進(二酸化炭素CO₂排出量・電力使用量削減)

A. 工場内・外のエアコンの配置リストの作成

井上機工株式会社 工場内 エアコン冷暖情報

No.	GHP No.	メーカー	セット	室内機	室外機	発売年 (設置年)	出力 (kW)	冷媒	耗入量 (kWh)
A1		三菱電機	PSZ-ZRMP140K2	PS-RP140KA12	PUE-ZRMP140KA2	2016	2.8	R22	5.4
A2		三菱電機	PSZ-ZRMP140K2	PS-RP140KA12	PUE-ZRMP140KA2	2016	2.8	R22	5.4
A3		三菱電機	MFZ-ERP280K7	MF-RP280KA7	PUE-ERP280KA7	2014	5.7	R410A	7.7
A4		三菱電機	MFZ-ERP280K7	MF-RP280KA7	PUE-ERP280KA7	2014	5.7	R410A	7.7
A5		三菱電機	MFZ-ERP280K7	MF-RP280KA7	PUE-ERP280KA7	2010	5.5	R410A	7.7
A6		三菱電機	MFZ-ERP280K7	MF-RP280KA7	PUE-ERP280KA7	2010	5.5	R410A	7.7
A7	GHP-2	ヤマナ		HFAP160K1	YDZP850K1	2018		R410A	26.1
A8	GHP-1	ヤマナ		HFAP160K1	YDZP850K1	2018		R410A	26.1
A9	GHP-2	ヤマナ		HFAP160K1	YDZP850K1	2018		R410A	26.1
A10	GHP-1	ヤマナ		HFAP160K1	YDZP850K1	2018		R410A	26.1
A11		三菱電機	MFZ-F280K7	MF-RP280KA7	PUE-F280KA7	2008	5.5	R410A	7.1
B1		三菱電機	MSZ-FLX401GS-R	MS-FLX401GS-R	MUE-FLX401GS	2017	1.02	R22	1.3
B2		三菱電機	PK-R30FAL9	PK-R30FAL9	PU-R30GA2	1998	2.2	R22	3.3
C1		三菱電機	PCZ-ZRP280K2	PC-RP280KA12	PUE-ZRP280KA2	2016	5.7	R410A	7.7
C2		三菱電機	PCZ-ZRP280K2	PC-RP280KA12	PUE-ZRP280KA2	2016	5.7	R410A	7.7
C3		三菱電機	PCZ-ZRP280K2	PC-RP280KA12	PUE-ZRP280KA2	2013	2.5	R410A	3.8
C4	GHP-4	ヤマナ		HHAP280K	YDZP850K1	2018		R410A	26.1
C5	GHP-3	ヤマナ		HHAP280K	YDZP850K1	2018		R410A	26.1
C6	GHP-5	ヤマナ		HHAP280K	YDZP850K1	2018		R410A	26.1
C7	GHP-7	ヤマナ		HHAP280K	YDZP850K1	2018		R410A	26.1
C8	GHP-8	ヤマナ		HHAP280K	YDZP850K1	2018		R410A	26.1
C9		三菱電機	PCZ-SRP140K2	PC-RP140KA12	PUE-SRP140KA12	2013	2.5	R410A	3.8
C10		三菱電機	PUH-J280FA	PUH-J280EA	PUH-J280FA	1995	7.5	R22	11
C11		三菱電機	PUH-J280FA	PUH-J280EA	PUH-J280FA	1995	7.5	R22	11
C12	GHP-4	ヤマナ		HHAP280K	YDZP850K1	2018		R410A	26.1
C13	GHP-3	ヤマナ		HHAP280K	YDZP850K1	2018		R410A	26.1
C14	GHP-1	ヤマナ		HDAP160K4	YDZP850K1	2018		R410A	26.1
C15	GHP-5	ヤマナ		HDAP160K4	YDZP850K1	2018		R410A	26.1
D1		三菱電機	MFZ-RP112EH	MF-RP112EA3	MUE-RP112HA7	2008	2.3	R410A	2.7
D2		三菱電機	MFZ-RP112AH	MF-RP112AA2	MUE-RP112HA4	2006	1.9	R410A	4.7
D3		三菱電機	PL-CRP160LA3	PL-ERP160EA3	PU-CRP160LA3	2015	3.3	R410A	4.6
E1	GHP1-2	ヤマナ		HDAP160K1	YDZP850K1	2018		R410A	26.1
E2	GHP1-1	ヤマナ		HDAP280K	YDZP850K1	2018		R410A	26.1
E3	GHP1-3	ヤマナ		HDAP280K	YDZP850K1	2018		R410A	26.1
F1		三菱電機	PEH-100K	PEH-100AK	PUNT-100G	1988	2.7	R22	3.7
F2		三菱電機	PEH-100K	PEH-100AK	PUNT-100G	1988	2.7	R22	3.7
F3		三菱電機	PEH-100K	PEH-100AK	PUNT-100G	1988	2.7	R22	3.7
F4		三菱電機	PEH-100K	PEH-100AK	PUNT-100G	1988	2.7	R22	3.7
F5		三菱電機	PEH-100K	PEH-100AK	PUNT-100G	1988	2.7	R22	3.7
F6		三菱電機	PEH-100K	PEH-100AK	PUNT-100G	1988	2.7	R22	3.7
F7		三菱電機	PEH-100K	PEH-100AK	PUNT-100G	1988	2.7	R22	3.7
F8		三菱電機	PEH-100K	PEH-100AK	PUNT-100G	1988	2.7	R22	3.7
F9		三菱電機	PEH-100K	PEH-100AK	PUNT-100G	1988	2.7	R22	3.7
G1									
G2									

井上機工株式会社 工場内 エアコン設置場所



B. エアコンの入替(①最新型EHPエアコン、GHPエアコン)



最新型EHPエアコン



以下GHPエアコン



今年度は、応接室のEHPエアコンを最新型に1台入替、工場エリアのEHPエアコン(13台)をGHPエアコン(16台)に入替しました。

旧型エアコン2000年製以前(9台)、2010年製以前(4台)、を最新型EHP及びGHPにすることで、二酸化炭素CO₂排出量及び電気使用量が削減することが出来ました。

V-8.環境目標の実績-平成29年度活動内容(4)

(4)産業廃棄物処理の分別状況の視察(2017.9.28:木)

蛍光灯、乾電池等の収集運搬をおこなっている(株)ホクセイの運搬、仕分け処理の実情を視察と話を聞くことにより今後の分別、管理の推進、改善の参考としました。



事務所入口に
EA21認証掲示



破碎前の蛍光灯



廃蛍光管リサイクル装置



破碎された蛍光管のガラス部分



分別破碎された金属部分



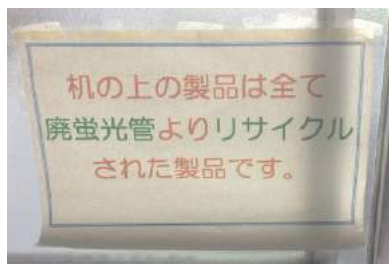
金属部分を更に分別



細分別された金属



細分別された金属



細分別された蛍光灯



蛍光灯と再生された商品



ゴルフ場のバンカーの砂の
変わりに使用される再生ガラス

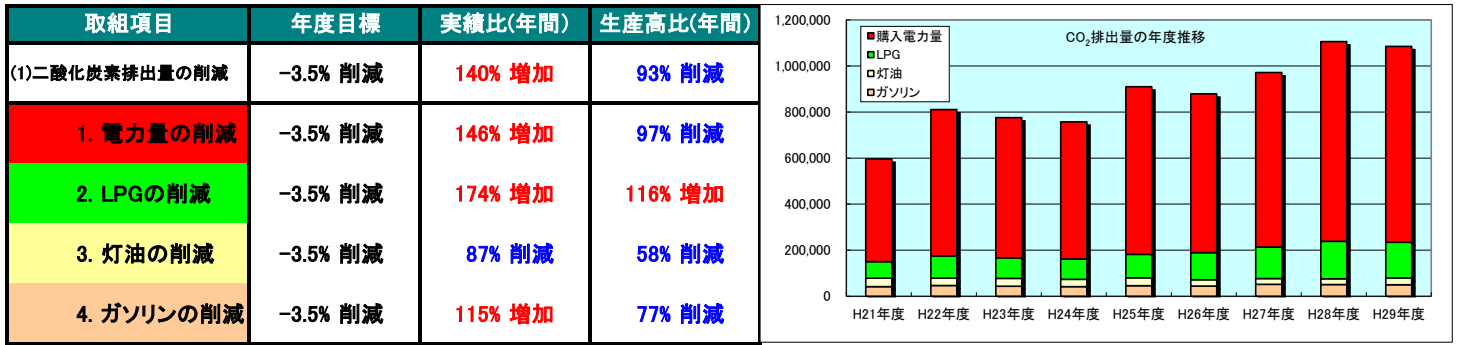


再生ガラスの圧縮ガラスやカラーガラス



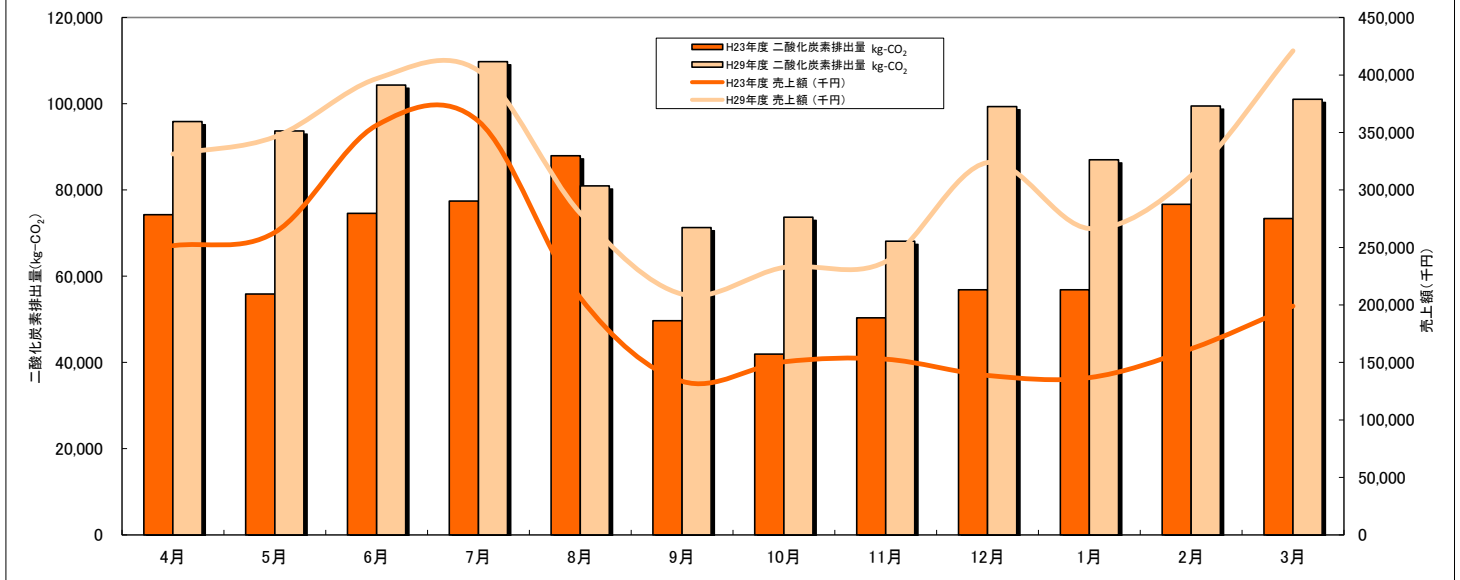
再生ガラスの表札や壁素材

VI-1.環境活動計画の取組結果とその評価 1/4



二酸化炭素排出量の基準年度との比較

年度	項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H23年度	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	74,259	55,865	74,568	77,410	87,955	49,688	41,948	50,372	56,855	56,846	76,683	73,376	775,826
H29年度	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	95,880	93,678	104,344	109,756	80,938	71,300	73,702	68,131	99,351	87,010	99,455	101,019	1,084,566
H23年度	売上額	(千円)	251,547	263,101	356,272	359,838	206,295	133,659	150,558	152,838	138,699	136,801	161,880	199,017	2,510,504
H29年度	売上額	(千円)	331,288	346,179	396,824	403,722	279,786	209,363	232,647	237,680	323,855	266,502	312,508	421,027	3,761,379
二酸化炭素排出量の削減(基準年度比)			129%	168%	140%	142%	92%	143%	176%	135%	175%	153%	130%	138%	140%
売上額比(基準年度比)			132%	132%	111%	112%	136%	157%	155%	156%	233%	195%	193%	212%	150%



今年度の生産と排出動向

基準年度(平成23年)と比較すると、売上は150%に対して、二酸化炭素排出量(以下CO₂排出量)は140%の増加に抑えることができた。本年度の特徴として、繁忙期5～7月と機種変更前10月を除いた月で、対H23年度売上額の比率よりもCO₂排出量の比率の方が低く抑えることが出来た。また8月は、対H23年度のCO₂排出量よりも低く抑えることが出来た。一方、近年生産数が増加していく、5月～7月は、対23年度売上額の比率と対23年度CO₂排出量比率は、ほぼ同じ比率で推移した。これは、例年冷暖房機を使用しない5～6月と7月の酷暑による冷房機の使用によるものと12月の暖房機器使い始めによるものであるが、その他の月において大幅に上回る月はなかった。

現在までの取組結果

<継続的な取組>

「電力使用量削減」に関しては、照明器具劣化・破損で交換の際、省エネ型(LED照明)導入の推進。工場内水銀灯の使用は原則、禁止とした。また契約電力維持の為、旧型EHP→最新型EHPエアコン1台入替、旧型EHPエアコン→GHPエアコン13台入替した。使用量の多い夏季にデマンド管理の手法として構内放送による節電の呼びかけを強化した。

「LPG」に関しては、使用量の多い設備(ロウ付機)の停止中のムダ火(待機中の火力削減)改善に取り組んだ。

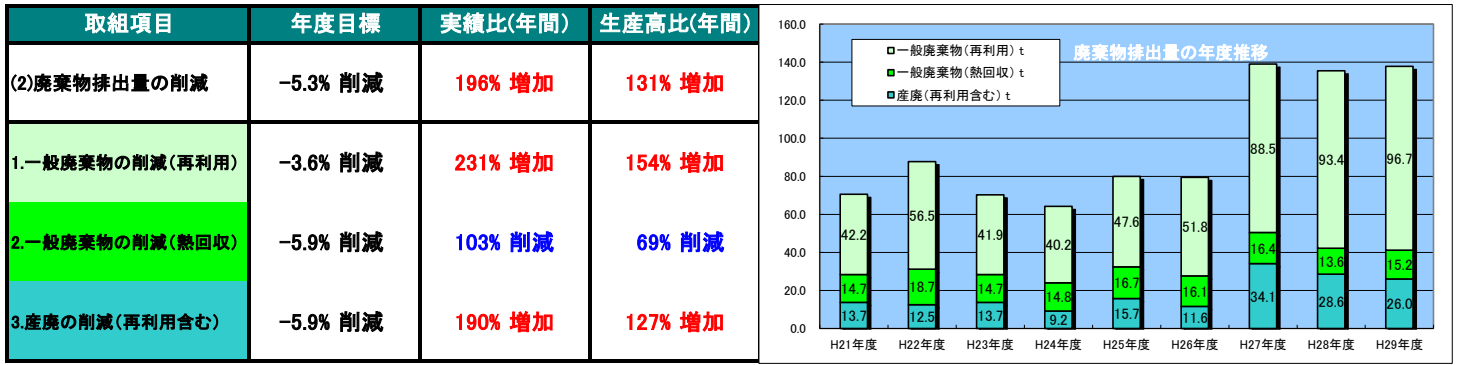
「ガソリン」に関しては、環境省の推薦するエコドライブの啓蒙活動の為、宣伝ポスターをインターネットでダウンロードし、食堂・会議室などに掲示した。

<結果>

二酸化炭素排出量 実績比 140%(増加) 生産高比 93%(減少)
 目標値(-3.5%)未達成だったが、生産高比で-7%減

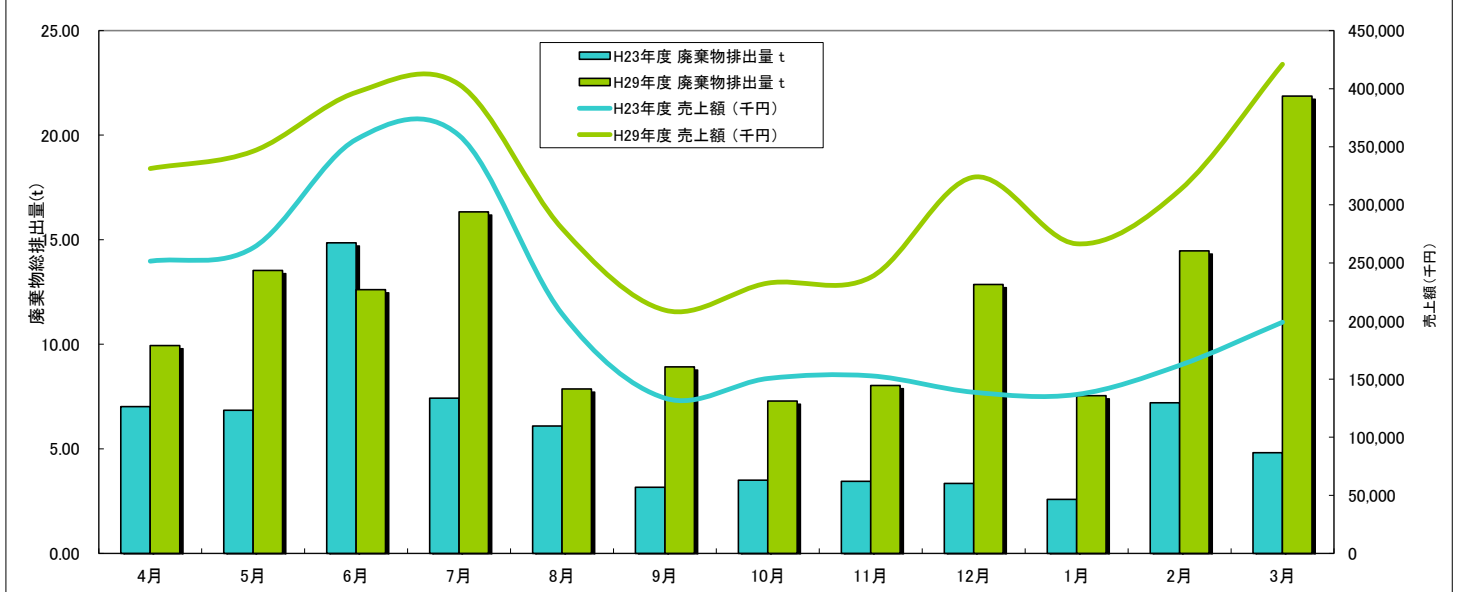
評価	内容	検印
◎	生産変動と投入人員の調整が難しい中、実績値では増加し、目標値は未達成であったが、生産高比では目標の-3.5%の2倍の-7.0%削減できた。購入電力も昨年度と比較して-2%削減することが出来、全社的にやっている地道な省エネを含む環境活動の取組の成果と実感する。本年度末にEHPをGHPへ入れ替えた(13台)ことで、次年度の電力使用量の削減に大いに期待すると共に、H30年度にも旧型のEHPをGHPへ入替えていきたい。	技術 30.04.12 藤澤

VI-2.環境活動計画の取組結果とその評価 2/4



廃棄物排出量の基準年度との比較

年度(西暦)	項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H23年度	廃棄物排出量	t	7.02	6.85	14.85	7.42	6.09	3.17	3.50	3.45	3.35	2.58	7.20	4.82	70.3
H29年度	廃棄物排出量	t	9.94	13.53	12.61	16.33	7.87	8.92	7.28	8.03	12.86	7.54	14.47	21.87	141.3
H23年度	売上額	(千円)	251,547	263,101	356,272	359,838	206,295	133,659	150,558	152,838	138,699	136,801	161,880	199,017	2,510,504
H29年度	売上額	(千円)	331,288	346,179	396,824	403,722	279,786	209,363	232,647	237,680	323,855	266,502	312,508	421,027	3,761,379
廃棄物総排出量の削減(基準年度比)			142%	198%	85%	220%	129%	282%	208%	233%	384%	292%	201%	454%	201%
売上額比(基準年度比)			132%	132%	111%	112%	136%	157%	155%	156%	233%	195%	193%	212%	150%



今年度の生産と排出動向

一般廃棄物(再利用)の主である段ボールは昨年以上に生産が多い為、増加している。社内で流通用として活用しているが、最終的には廃棄物となる。一般廃棄物(熱回収)の主である梱包用のビニール袋も昨年以上の生産によって増加している。ダンボール同様に社内で繰り返し使用し、廃棄削減をしている。産業廃棄物に関しては、平成29年度は、29年5月23日、7月13日、9月27日、12月20日、2月21日、30年3月7日、3月28日に処分をしている。今期、老朽化設備の更新と現場の3S等で、鉄屑の廃棄量が昨年度に比べて約7ton増加した。

現在までの取組結果

<取組>

- 産業廃棄物(再利用)の中で磨耗や劣化した治具類をそのまま廃棄していたものを各職場から回収し再加工し再利用(一昨年より継続)した。
- 使用済み一般廃棄物(段ボール・ビニール袋)の社内再利用の強化!社内在庫品(試作品・サービス部品)の保存梱包に使用。(一昨年より継続)
- 分別廃棄・収集方法・再利用の施策「異種金属接合品(アルミ・銅共晶品、真鍮・銅ロウ付品etc.)の分別廃棄の強化!」(継続)
- 各職場別一般廃棄物・産業廃棄物(銅くず)の廃棄量の計量・記帳、毎週の役職朝会にて廃却重量と金額の原因分析結果を報告し啓蒙。(継続)

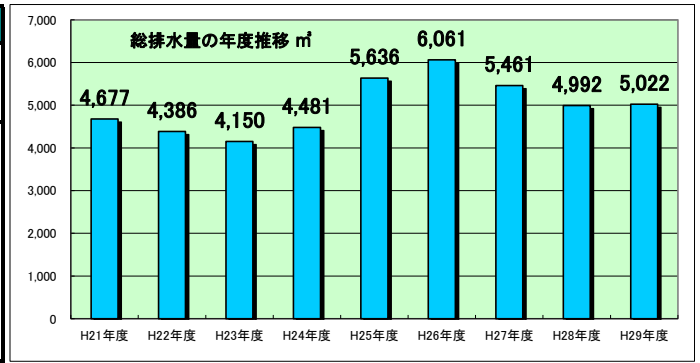
<結果>

廃棄物排出量 実績比 196%増加 生産高比 131%増加 目標値未達成

評価	段ボール、ビニール袋は、工場内の各課(職場)への通い箱、通い袋としての使用が、非正規社員にも浸透している。	検印
△	廃棄する場合の報・連・相及び記録の徹底、廃棄処理のルール化を見える化して無駄な廃棄を無くし、再資源化を推進することが出来た。原材料の銅管の廃棄量は、毎週各職場別に集計し、報告、掲示しており、廃棄削減が浸透してきている。	技術 30.04.13 藤澤

VI-3.環境活動計画の取組結果その評価 3/4

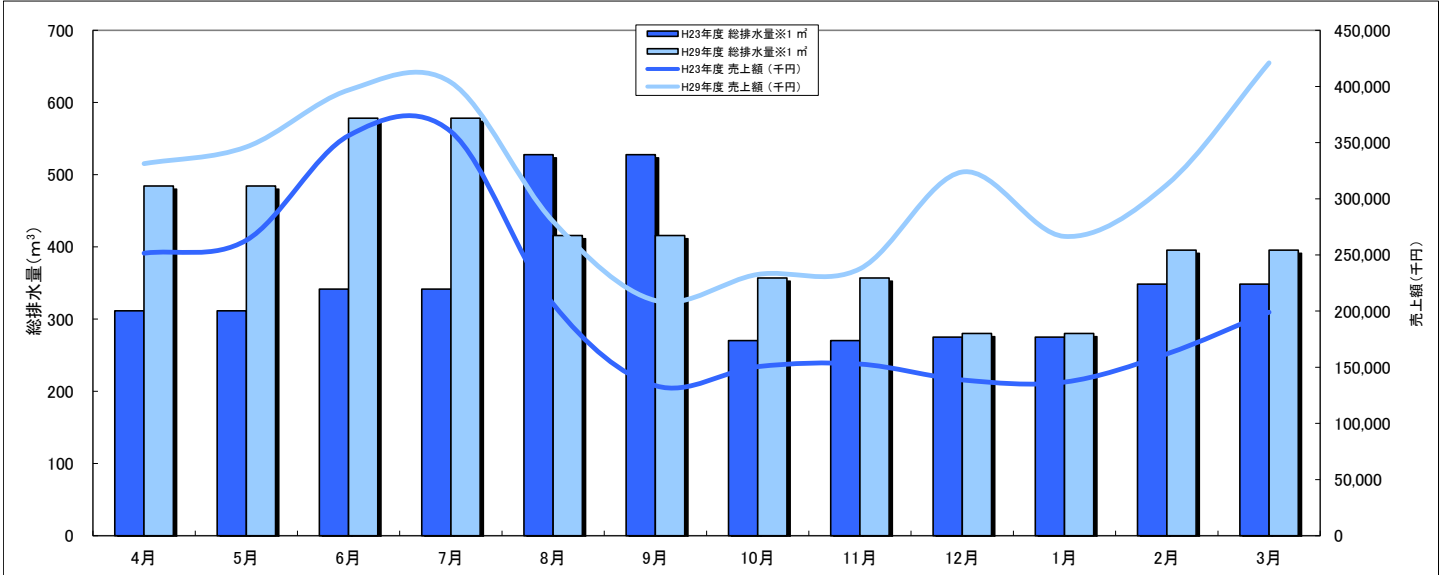
取組項目	年度目標	実績比(年間)	生産高比(年間)
(3)総排水量の削減	-3.6% 削減	121% 増加	81% 減少
1. 水道水の節水	-3.6% 削減	121% 増加	81% 減少
2. トイレの節水	-3.6% 削減	121% 増加	81% 減少
3. 工業用水の節水	-3.6% 削減	121% 増加	81% 減少



総排水量の基準年度との比較

年度(西暦)	項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計※
H23年度	総排水量※1	m³	312	312	342	342	528	528	270	270	275	275	349	349	4,150
H29年度	総排水量※1	m³	484	484	578	578	416	416	357	357	280	280	396	396	5,022
H23年度	売上額	(千円)	251,547	263,101	356,271	359,837	206,295	133,628	150,557	152,837	138,698	136,801	161,879	199,016	2,510,467
H29年度	売上額	(千円)	331,288	346,179	396,824	403,722	279,786	209,363	232,647	237,680	323,855	266,502	312,508	421,027	3,761,379
総排水量の削減(基準年度比)			156%	156%	169%	169%	79%	79%	132%	132%	102%	102%	113%	113%	121%
売上額比(基準年度比)			132%	132%	111%	112%	136%	157%	155%	156%	233%	195%	193%	212%	150%

※1 検針は、奇数月に行っている為、数値は、2ヶ月平均とした。



今年度の生産と排出動向

弊社の水の使用量は、従業員の手洗い、トイレの洗浄などの生活用水が主であり、従業員総数と比例する。
 今年度も例年以上の生産増があり、季節従業員の雇用数や稼働時間も大幅に増大する中、一昨年からの節水の呼びかけと夏場の小まめの給水(水分補給)施策が功を奏し、通年を通して排水量の抑制が出来た。
 しかし、水道水の節水に関しては、夏の暑さと湿度が高くなる6月から、熱中症対策で14時の水分補給の実施と生産増による9時間勤務や季節従業員の増加、温度上昇防止の打ち水等により、6月及び7月は大幅に上昇してしまった。

現在までの取組結果

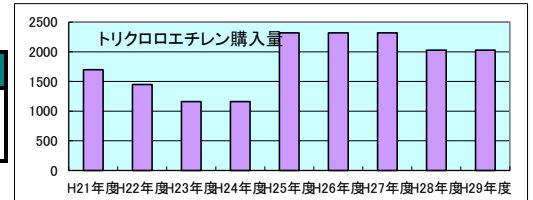
<p><取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「節水呼びかけ表示」による、節水の啓蒙活動の続行と朝礼(朝会)での伝達の強化 ・屋外水道箇所へ凍結防止栓の取付 ・設備冷却水の漏洩、休日等のバルブの閉め忘れチェックの推進 ・トイレの手洗い場のコックの締め忘れ、漏洩のゼロ化の強化 ・水道料金のチェック(昨年度と月別比較)による変化点の調査 <p><結果></p> <p style="text-align: center;">総排水量 実績比 121%(増加) 生産高比 81%(減少) 目標値(-3.6%)達成</p>
--

<p>評価</p> <p>◎ 昨年度比、生産量(売上高)は3.1%増に対して、総排水量は0.6%増と健闘している。基準年度比目標に対しても大幅に達成できた。</p> <p>◎ 昨年以上の生産増により、投入人員も増えた中、派遣社員、アルバイトの方々へのPRがうまく浸透してきている。</p> <p>◎ 今後も夏場の熱中症対策や冬場の凍結による水道管破裂対策は、毎年起きる可能性があるため、継続的に対策を行っていく。</p>	<p>検印</p> <p style="text-align: center;">技術 30.04.13 藤澤</p>
--	---

VI-4.環境活動計画の取組結果その評価 4/4

(4) 化学物質の削減

取組項目	年度目標	実績比(年間)	生産高比(年間)
1. トリクレン洗浄の削減	-2.2% 削減	175% 増加	117% 増加



今年度の生産と使用動向

昨年から購入量は、減っていないが、売上げは、28.6億円(H26)→34.8億円(H27)→36.5億円(H28)→37.6億円(H29)と増加しており、原単位で比較すると、87.9kg/億円(H25)→81.1kg/億円(H26)→66.7kg/億円(H27)→55.6kg/億円(H28)→54.0kg/億円(H29)と減少している。

現在までの取組結果

<取組>

購入量の削減—廃液の再生(4月より実施)、排出量の抑制—トリクレン洗浄品の削減、全廃検討、

<結果>

トリクレン購入量 実績比 175%(増加) 生産高比 117%(増加) 目標値未達

評価	内容	検印
△	トリクレンは一昨年5月より、 廃液を再生及び再生したトリクレンを購入している 。(新規購入量の抑制の為) 新規事業製品の洗浄に使用している 炭化水素も廃液を再生及び再生した炭化水素を購入している 。(新規購入量の抑制の為) 次年度は、「 トリクレン 」洗浄廃止に向けて、諦めることなく会社全体で知恵を出し合い取り組んでいく。	技術 30.04.14 藤澤

(5) グリーン調達

取組項目	年度目標	実績比(年間)
1. 調達機器・資材のグリーン調達推進	30 品目	27 品目



今年度の生産と調達動向

「**消耗品費節約**」の経営方針の中、年度目標クリアに至っていない。**エコマーク・グリーンマーク**商品は、価格的に一般品に比較して安くは無く、生産が増加し、消耗品も多くなる中、**節約**の二文字が重くのしかかっている。

現在までの取組結果

<取組>

事務用品、工具等の標準購入品は、**商社及びインターネットの価格を比較し、「安く、安心・安全な商品」の発掘に努めている**。

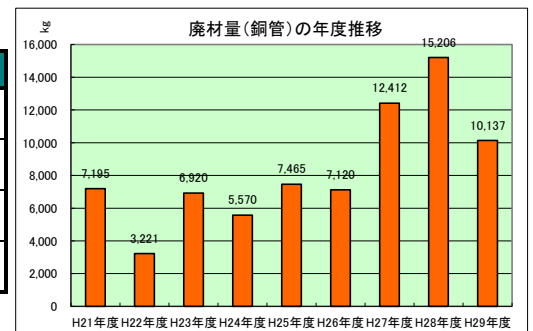
<結果>

グリーン購入 27品目 目標値未達成

評価	内容	検印
△	生産量増加と消耗品増加は比例関係にあり、製品の コスト削減 にも直接影響がある為、 購入品決定には慎重な判断が必要となる 。 事務用品、補修部品や工具等の標準購入品で、 価格が同等の場合は、リサイクル商品を優先的に購入 していく。	技術 30.04.14 藤澤

(6) 自らが生産・提供する製品及びサービスに関する環境配慮

取組項目	年度目標	実績比(年間)	生産高比(年間)
1. 廃材料(銅材)の削減	-6.3% 削減	146% 増加	98% 減少
2. 環境CSR対応	CSRの啓蒙活動の推進 インターンシップ等での会社取組のPR		
3. 工場敷地内及び周辺清掃・緑化推進活動	毎月の全体朝礼後、構内・外の美化清掃の実施		
4. 職場環境改善の推進(工場内完全禁煙)	工場内完全禁煙の徹底 工場内パトロール		



今年度の生産と取組動向

今年は、昨年、一昨年に過年度製品のサービス部品の**在庫量見直しの整理、廃却がひと段落したことで大幅(対前年約5ton削減)に抑えることができた**。今後も客先の要望に応えていくため、定期的に**不要在庫の見直し**を行っていく。

現在までの取組結果

<取組>

銅くずの**廃棄置場の5S及び見える化 工場構内・外の美化清掃**による地域貢献 **工場内完全禁煙推進と社内パトロール**によるCSR評価

<結果>

廃材料(銅管)の削減 実績比 146%(増加) 生産高比 98%(減少) 目標値未達成

評価	内容	検印
○	銅管の廃棄量削減は未達成 であったが、継続的な 社内在庫置場の5S及び不要在庫も徐々に減ってきている 。 環境保全対応も着実に成果が出てきており 、中・高生、支援学校の インターンシップの受入れも毎年実施 出来ている。 屋外ごみ箱の ゴミ分別 については、今後も地道に指導していく。工場内の 完全禁煙 は定着、新人への啓蒙も継続していく。	技術 30.04.14 藤澤

VI-5 次年度の取組内容(平成30年度 環境活動計画)

平成30年度(H30年4月～H31年3月) エコアクション21 年間活動計画

月毎の実績評価: ●→100～81%、▲→80～51%、■←50%以下)

統括責任者	管理責任者	作成者
		

取組項目	・推進担当職場 ・推進担当者	スケジュール													
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
(1) 二酸化炭素排出量原単位の2.0%削減															
1 電力使用量 2.5%削減	1 省エネ補助金によるGHPエアコンの導入 (省エネルギー設備による生産性革命促進事業)	経営企画室 鳥居T	補助金の内容調査と申請	GHPメーカーと仕様の打合せ	GHP設置場所の整備と設置工事	導入後の稼動状況チェックと実績の評価									
	2 省エネ型生産設備の導入 (老朽化設備の更新を検討)	技術部 藤澤部長	老朽化設備のリストアップ	メーカーに見積り依頼及び発注	設備設置場所の整備	導入後の稼動状況チェックと実績の評価									
	3 窒素発生装置の省エネ運転の推進 (タイマー運転の活用)	工機課 小沼技師長	タイマー運転状況の確認及び問題点の抽出		装置メンテナンス	稼動状況チェックと問題点の把握						実績の評価			
2 LPG使用量 1.0%削減	4 補助金活用の自動ロウ付機の導入 (自立化支援対策補助金の申請)	製造部 渡辺工場長	補助金交付申請に向け内容調査と申請の実施	ロウ付機製造メーカーとの仕様検討	12月導入の為の設置場所周辺整備	導入後の稼動状況チェックと実績の評価									
3 灯油・ガソリン使用量 1.0%及び3.0%削減	5 社員への啓蒙活動の更なる推進 (省エネ運転の推進)	生産管理課 金子T	ポスター等を活用した啓蒙活動実施	社用車の定期整備の実施	灯油ストーブの点検実施	稼動チェックと実績の評価									
(2) 廃棄物排出量原単位の1.5%削減															
3Rの推進	1 死蔵品(治具・工具)の再利用の推進 (リユース)	工機課 渡辺T	各職場の治・工具の棚卸し実施(不用品の回収) 工作室にて再利用		古い治・工具を工作室でばらして再利用開始	再利用治・工具の使用状況確認						実績の評価			
	2 端材の廃棄分別化の廃棄物削減推進 (リデュース)	生産管理課 山田T	期間社員(パート・アルバイトetc.)への分別廃棄の啓蒙強化を	現状把握と問題点の見える化	生産管理にて検討会議(今後の課題と対策)	実績の評価									
	3 廃棄物(設備)の再資源化の推進 (リサイクル)	技術部 大久保T	今年度廃棄予定の設備及び修理が可能な設備の洗い出し(設備メーカーと打ち合わせ)	修理可能な設備の整備実施	来年度に向けた取り組み検討						実績の評価				
(3) 排水量原単位の2.0%削減															
排水量削減 (節水)	1 節水(不凍コマの設置推進)	工機課 芹沢T	不凍コマ設置状況の確認	節水機器の市場調査と情報収集	破損危険箇所に試験設置と他の手洗い場への導入実施	稼動チェックと実績の評価									
	2 トイレの節水(啓蒙活動の強化)	生産管理課 金子T	南側男子トイレ内の自動洗浄時間の見直しと実施後の使用状況チェック	使用者へのヒヤリング	北側男子トイレの手動洗浄実施の啓蒙	実績の評価									
	3 水道配管のメンテナンスの実施	工機課 渡辺T	水道管の使用状況と問題点把握(過去発生したトラブル等の内容)の調査	配管業者に点検見積りと不良箇所点検依頼	実施検討(相見積もりetc.)						実績の評価				
(4) 化学物質使用量原単位の前年度維持(0.0%)															
トリクレンの削減	1 トリクロロエチレン完全撤廃計画	技術部 藤澤部長	トリクレン廃止に向けた使用製品の洗い出し	トリクレン使用状況のチェック(洗浄品の内容)	別洗浄での洗浄試験の実施	客先への洗浄方法の変更を打診						実績の評価			
	2 炭化水素洗浄液の再生利用実施	製造部 渡辺工場長	炭化水素再生品の洗浄状況確認(脱脂状態)	再生品の交換時期の確認	再生品交換時期延長	延長後の洗浄チェックと実績の評価									
(5) グリーン購入と消耗品の節約															
グリーン購入と節約	1 工場内照明LED化の推進	工機課 小沼技師長	老朽故障した蛍光灯設置箇所をLED照明に変更及び追加照明を積極的にLED照明使用											実績の評価	
	2 グリーン購入品の購入の継続と強化	生産管理課 金子T	インターネット及び購入業者へのグリーン購入品の再調査	消耗品の購入都度安価及びグリーン購入品を確認	実績の評価										
(6) 自らが生産・提供する製品及びサービスに関する環境配慮 上下銅排出量原単位5.0%削減															
社長が取り上げた 環境負荷の削減	1 在庫日数30%削減 先行生産の徹底圧縮と必要性の理論的把握	生産管理課 山田T	サービス部品、製品在庫のリストアップと現状在庫の把握	サービス部品、製品在庫の適正在庫量の確認と見直し						実績の評価					
	2 環境CSR対応	統括責任者 佐野社長	①昨年度より継続実施(6月環境月間啓蒙活動、8～9月インターンシップ受入れ) ②工場外の駐車場の夜間一般開放												
	3 職場環境改善(ゴミ分別の強化) 工場敷地内外の清掃・緑化活動推進	製造部 渡辺工場長	①昨年度より継続実施(フレッシュ広場の整備、廃棄物置場のレイアウト改善、一般ごみの分別推進の継続、工場内ペンキ塗り実施) ②社員用駐車場の新設と整備												
環境管理責任者 検印	取締役 技術部長														
統括責任者 検印	取締役 社長														

VII. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規等の遵守状況

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

点検日
H30.5.11
点検者
技術 30.05.11 藤澤

法規・条例・規制	適用内容又は規制基準値	備考	遵守状況	届出等確認日
廃棄物処理法	* 保管施設の表示と保管基準の遵守	表示板(60cmx60cm)	○	-
	* 収集運搬業者及び処分業者との委託契約	契約書		-
	* 委託契約書の保管	5年間		-
	* マニフェストの管理	5年間		-
	* マニフェストの交付状況報告	年1回		H29.6.22届出
静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例	事業者は、その産業廃棄物の運搬又は処分を業者に委託する時は当該委託に係る施設の状況その他で定める事項を実地に確認しなければならない。	年1回以上	○	(株)ホクセイ <産業廃棄物処理業者> H29.9.28確認
水質汚濁防止法	* 工場廃水の水質検査	月1回 自主検査	○	-
	* 適用される排出基準の遵守	市の立入検査 県の立入検査		H29.12.14検査 H29.1.12検査
	* 水質汚濁防止法に係る特定施設移動届出書	県への提出		H22.7.26届出
騒音規制法	* 適用される騒音基準の遵守	エアコンプレッサ 7台	○	H29.10.16届出
振動規制法	* 適用される振動基準の遵守	エアコンプレッサ 7台	○	H29.10.16届出
PRTR法	* 環境省への情報公開の遵守	年1回	○	H29.6.13届出
フロン排出抑制法	* 適用される全ての第一種特定製品の点検・記録・報告の遵守	(業務用の空調機器) 簡易点検: 全て 定期点検: 7.5kW以上	○	- H30.3.26実施
関連法規	① 家電リサイクル法・パソコンリサイクル法	社有家電、OAパソコンなど	○	-
	② 自動車リサイクル法	社有車 社内エアコンのガス漏れ		-
労働安全衛生法	* トリクレン洗浄時の安全基準の遵守	防具着用	○	-
	* 社員の健康診断の実施	健康診断 (年1回)		H29.9.04実施
消防法	* 適用される消防基準の遵守	炭化水素洗浄装置 導入時に所轄消防署に届出	○	H9.12.2届出

2. 訴訟等の有無

関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。

3. その他の規制

- * RoHS規制 : 製造製品に対して以下6品目の不含有の遵守
不含有確認対象品目
自給銅管材料・自給ストレナー・ロー材
マーキング用ペイントマーカー
※原則的に客先指定図面の支給部品に関しては客先にて確認
カドミウム・六価クロム・水銀・鉛
ポリブロモビフェニル
ポリブロモジフェニルエーテル
- * REACH規則 : 自社調達納入資材すべての含有化学物質の客先への情報伝達の遵守
- * SDS : 化学物質等の安全データシート(トリクレン)の把握とデータ収集
- * グリーン購入法 : 国、独立行政法人及び地方公共団体による環境物品等の調達の推進、情報の提供

VIII.代表者による全体評価と見直しの結果

活動期間：平成29年度（平成29年4月～平成30年3月まで）

環境管理責任者	検印
藤澤 尚朗	技術 30.05.30 藤澤

1.環境活動の取組のチェック

項目	チェック	必要に応じて評価・コメントを記入
① エコアクション21文書の作成と保管と整理	<input checked="" type="checkbox"/>	2017年度版に準拠した環境活動レポートの作成。 環境活動の取組・負荷の自己チェック表の作成。 (ガイドライン2017年版に準拠したフォームで作成)
② 環境方針・環境目標及び目標達成状況の確認	<input checked="" type="checkbox"/>	2009年度版のガイドラインに沿った環境方針・目標を策定した。 平成23年度を基準年度とし、環境目標を設定した。 ⇒平成23年より継続中
③ 環境活動計画及び取り組み実施状況の確認	<input checked="" type="checkbox"/>	生産途中で発生する銅管の廃棄物について、 各職場ごとに廃棄量を測定し、発生原因を突き止める取組み を展開している。
④ 教育・訓練の実施状況	<input checked="" type="checkbox"/>	ゴミの分別や役員が率先してアイデアを出し、 社員に環境活動を積極的に推進していた。 環境月間に訓示及び標語を募集。
⑤ 環境関連法規遵守状況	<input checked="" type="checkbox"/>	関係省庁への報告や廃棄物・特定化学物質の管理を 徹底して行い、適法に努めた。
⑥ 外部コミュニケーション・対応記録	<input checked="" type="checkbox"/>	地域の中・高校生の見学やインターシップを通じ、 事業内容と環境活動の取り組みをPR。
⑦ 問題点の是正・予防措置の実施状況	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
⑧ RoSH・REACH規制対応	<input checked="" type="checkbox"/>	客先より要請のある、欧州環境規制に対応。 製品の規制物質の含有確認を実施 ⇒継続中

統括責任者	検印
佐野 勝俊	社長 30.05.31 佐野

2.統括責任者による環境経営システムの見直し

項目	見直し	見直し事項等
① 環境方針	有 無	2015年4月1日に見直し改定。
② 環境目標・計画	有 無	策定した目標に対し取り組みを続ける。
③ 環境活動計画・取組項目	有 無	銅管の廃棄量について状況を把握し改善点を模索していく。
④ 環境関連法規対応	有 無	フロン排出抑制法(2015年4月施行) →7.5kw以上の空調機器の簡易点検実施(2018.3.26)

全体評価「総括」

本年度は、主要取引先である三菱電機様の大幅生産数増により、昨年を上回る過去最大の売上げとなった。しかしながら、過去から売上増＝銅管廃棄量の増加であったが、過年度製品のサービス部品の在庫見直しの整理、廃却がひと段落したことで銅材は大幅に削減できたが、老朽化設備の更新と現場の3S等で、鉄屑の廃棄量が昨年度に比べて約7ton増加した。老朽化した設備の更新は、今後も必須であり、計画的に進めていく。

また今年度は、省エネ型コンプレッサーを導入することが出来た。今後も設備導入の際は、省エネタイプを積極的に検討していきたい。長年の懸案事項である、トリクロロエチレンの全廃に関しては、継続して積極的にアプローチ、検討していく。